

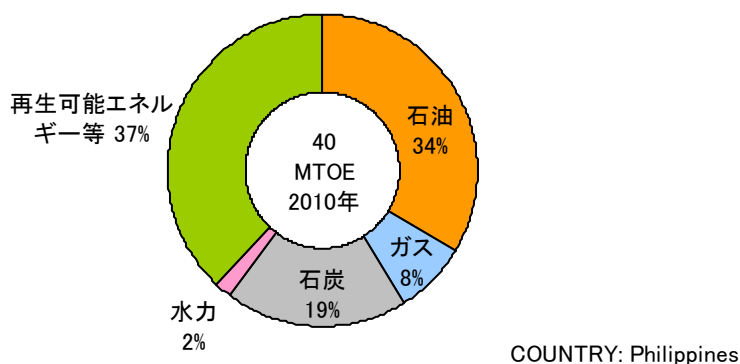
1-15 フィリピン

1. サマリー

1. エネルギー事情

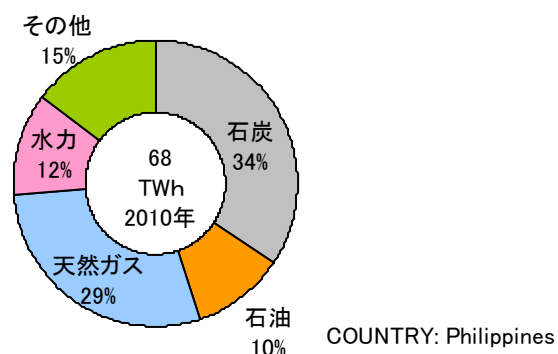
- (1) 一次エネルギー供給量(2010年) : 40 百万 TOE (日本の 0.09 倍)
- (2) 一人当たり一次エネルギー供給量(2010年) : 0.43T0E (日本の 0.12 倍)
- (3) エネルギー自給率(2010年) : 58%
- (4) エネルギー起源 CO₂ 排出量(2010年) : 76.43 百万 CO₂ 換算 ton (日本の 6.7%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量(2010年) : 0.82 CO₂ 換算 ton (日本の 9.1%)
- (6) エネルギー源別可採年数 (2011年) : 原油 22.3 年、天然ガス 29.7 年

一次エネルギー供給構成 (2010年)



(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012 edition.

発電電力量構成 (2010年)



(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 edition.

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- エネルギー省 (Department of Energy : DOE) がエネルギー産業における政策目標を設定する。DOE は、エネルギー部門における全ての計画を策定・施行・管理し、エネルギー資源の探鉱・開発や活用、省エネルギーも管轄する。

(2) 基本政策

- DOE が策定した最新の「フィリピンエネルギー計画」(2009-2030 Philippine Energy Plan: PEP2009-2030)では、次の3点を重要な政策目標としている。
 1. エネルギーセキュリティの確保
 2. エネルギー部門改革の効率的な実施
 3. ソーシャルモビライゼーション(social mobilization)と部門間モニタリング・メカニズムの実施

(3) 最近の動向

- 南シナ海の南沙諸島には石油や天然ガスが豊富とされ、中国、ベトナム、フィリピン、マレーシア、ブルネイ、台湾が領有権を争っている。フィリピンと中国は、南シナ海の領有権を巡る対立が激化しており、南シナ海のスカボロー礁 (Scarborough Reef、中国名・黄岩島) で2012年4月から6月にかけて、両国の艦船がにらみ合いを続けた。このような対立が続く中、2012年7月31日、フィリピン政府は南シナ海 (Northwest Palawan Basin の3鉱区) に関する石油・天然ガス開発について、業者選定のための入札を開始した。中国側の反発も予想され、開発は難航する可能性がある。

3. 日本とエネルギー分野における関係

- フィリピンはエネルギー純輸入国であり、わが国とのエネルギー貿易はほとんどないが、日本企業は発電事業に参画している。例えば、丸紅と東京電力の合弁企業である TeaM Energy が、2013年に\$7億かけて Pagbilao 石炭火力発電所 (700MW) の拡張 (400MW 追加) を開始することが明らかになった。TeaM Energy と Aboitiz Power Corp (independent power producer administrator) が折半出資で設立する JV が拡張計画の管理を行う。新規の発電所は2015年までに商業運転開始予定。また、TeaM Energy はフィリピンにおいて小型水力やバイオマス等の再生可能エネルギープロジェクトも検討していると報じられている。
- 2011年11月、三菱商事は、在フィリピン不動産会社 Ayala Land Inc. 100%出資の省エネルギー事業会社 Philippine Integrated Energy Solutions, Inc. 株式の40%を Ayala Land から取得することで合意し、フィリピンで省エネルギー事業 (地域熱供給事業及び ESCO 事業) に参画することを明らかにした。

2. 主要エネルギー指標

(2010年)

(1) 一次エネルギー供給量		40 MTOE
(2) 一人当たりの一次エネルギー供給		0.43 TOE/人
(3) GDP 当たりの一次エネルギー供給		0.31 TOE/千\$
(4) エネルギー自給率		58 %
(5) エネルギー起源 CO ₂ 排出量		76.43 百万 CO ₂ 換算 ton
(6) 一人当たりエネルギー起源 CO ₂ 排出量		0.82 CO ₂ 換算 ton/人
(7) エネルギー源別構成率	石炭	19 %
	石油	34 %
	ガス	8 %
	原子力	0 %
	水力	2 %
	再生可能エネルギー等	38 %
(8) エネルギーの輸入依存度		42 %
(9) 石油の輸入依存度		94 %
(10) 輸入原油の中東依存度		76.1 %
(11) 原油輸入先	第1位	サウジアラビア
	第2位	UAE
	第3位	ロシア

(出所) (1)～(4) および (7)～(9) は IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012 Edition.

(5)～(6) は IEA, CO₂ Emissions from Fuel Combustion 2012 Edition.

(10)～(11) は The Philippine Department of Energy HP. “Oil Supply/ Demand Report FY2011”